

# トラテロルコ虐殺事件半世紀 メキシコ政治の変遷

メキシコ革命から100余年、トラテロルコ虐殺から半世紀。AMLO勝利は何を意味するのか？

メキシコの1968年は、大学生・高校生主体の若い市民が、国際的に高まっていたベトナム反戦運動や「パリ五月革命」を我が物として受け止め、教育、政治、社会、経済、文化の在り方を変えるため蜂起した歴史的な年。学生蜂起はメキシコ五輪開会直前の「トラテロルコの虐殺」で潰えたが、変革の志は地下水脈となってメキシコ社会に広がっていった。

それから半世紀を経た2018年の7月1日実施された大統領選挙で、改革派民族主義者のアンドレス・マヌエル・ロペス・オブラドール（AMLO＝アムロ）元メキシコ市長（64）が圧勝、12月1日就任することになった。

メキシコ革命（1910～17）終結から101年、圧倒的多数派の政治的意志が国権の選挙介入を不可能にし、政権党を経験した伝統政党でない新興野党から初めて大統領を選んだ。有権者にとり「無血革命」と呼んでも過言でない偉業が達成されたのである。逆に見れば、スペイン植民地時代に源流を持つ支配階層が政治的大敗北を喫したのだ。

青年期の1967年から8年余り、記者としてメキシコ市を拠点にラ米取材・報道に携わり、その後も今日までメキシコとラ米を注視、往還してきたジャーナリストの伊高浩昭氏がメキシコ革命、学生蜂起、AMLO当選を、パースペクティブ（遠近法）を駆使しつつ語り解説する。



ジャーナリスト

講師 **伊高浩昭氏**

1943年東京生まれ。ジャーナリスト。元共同通信記者。1967年から50年間ラテンアメリカ全域を取材・報道。2005年から2013年まで立教大学ラテンアメリカ講座講師。『ボスニアからスペインへ——戦の傷跡をたどる』（論創社）、『ラ米取材帖』（ラティーナ）、『チェ・ゲバラ——旅、キューバ革命、ボリビア』（中公新書）など著書・翻訳書多数。

**入場無料**

日時 **10月20日（土）**  
17:00～19:00

**予約不要**

場所 **立教大学池袋キャンパス**  
**太刀川記念館カンファレンス・ルーム**

主催：立教大学ラテンアメリカ研究所

問合：〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1 立教大学ラテンアメリカ研究所事務局

TEL：03-3985-2578 E-mail：late-ken@rikkyo.ac.jp

<http://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/ilas/>